

感染制御・感染看護演習

ナンバリング:N3-S3-B20

責任者・コーディネーター	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師		
担当講座・学科(分野)	看護専門基礎講座、微生物学講座分子微生物学分野		
対象学年	3・4	区分/単位数	演習/1単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

感染症の制御を理解することは、看護師にとって非常に重要である。感染制御・感染看護演習では、1年次に学修した感染免疫学を基に病院内にて検出される微生物の人体に及ぼす影響の特性を理解し、微生物の取り扱いについて学ぶ。また、感染防止策としてのPPEの取り扱いについて修得する。

・教育成果(アウトカム)

病院内における微生物の特徴的な症状を学修することで、感染症について体系的に理解することができる。また、感染防止策としてPPEの取り扱いについて学修することで臨床判断能力の基礎を理解することができる。	
【学位授与方針と当該授業科目との関連】 本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。	
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。

・到達目標(SBO)

1. 看護師として感染制御に関わる役割について説明できる。
2. 手指衛生について理解し消毒法について説明できる。
3. 手指衛生の効果について保菌細菌の状況を把握することで説明できる。
4. 消毒効果について統計的に評価することで説明できる。
5. 感染防止策としてのPPEの役割について説明できる。
6. 感染性廃棄物の取り扱いについて説明できる。

・授業日程

【演習】 会場：西3-C実習室		
月日 曜日 時限	授業内容/到達目標	担当教員
8/4 月 3限	【授業内容】消毒法による手指衛生の効果① ・手指衛生の方法を正しく説明できる ・微量液体採取の方法を説明できる ・好気培養法を説明できる 【関連するSBO】1、2、3、4、6 【事前学修：60分】1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修：150分】演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師 分子微生物学分野 石河 太知 教授 三浦 利貴 助教
8/4 月 4限	【授業内容】消毒法による手指衛生の効果② ・濾過滅菌の方法およびメンブレンフィルターの取り扱いについて説明できる ・好気培養法について説明できる 【関連するSBO】1、2、3、4、6 【事前学修：60分】1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修：150分】演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師 分子微生物学分野 石河 太知 教授 三浦 利貴 助教
8/5 火 3限	【授業内容】消毒法による手指衛生の効果③ ・培地に発育した細菌について、その発育の様子から違いを観察し説明できる 【関連するSBO】1、2、3、4、6 【事前学修：60分】1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修：150分】演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師 分子微生物学分野 石河 太知 教授 三浦 利貴 助教

8/5 火 4限	【授業内容】 消毒法による手指衛生の効果④ ・培養条件の異なる検体を用いて、病原体の増殖の違いを観察し説明できる 【関連するSBO】 1、2、3、4、6 【事前学修:60分】 1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修:150分】 演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師 分子微生物学分野 石河 太知 教授 三浦 利貴 助教
8/6 水 3限	【授業内容】 消毒法による手指衛生の効果⑤ ・培養した検体の発育の違いから検出された細菌の状態と手指消毒法との関連について観察し説明できる 【関連するSBO】 1、2、3、4、6 【事前学修:60分】 1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修:150分】 演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師 分子微生物学分野 石河 太知 教授 三浦 利貴 助教
8/6 水 4限	【授業内容】 消毒法による手指衛生の効果⑥ ・発育した細菌の様子から消毒効果について統計学的に考察することができる ・感染性廃棄物について説明して廃棄することができる 【関連するSBO】 1、2、3、4、6 【事前学修:60分】 1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修:150分】 演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師 分子微生物学分野 石河 太知 教授 三浦 利貴 助教
8/7 木 3限	【授業内容】 感染防止策としてのPPE着脱演習① ・感染防止としての個人保護具の重要性について説明できる 【関連するSBO】 1、5、6 【事前学修:60分】 1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修:180分】 演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師
8/7 木 4限	【授業内容】 感染防止策としてのPPE着脱演習② ・個人保護具を正しく装着および取り外しができる 【関連するSBO】 1、5、6 【事前学修:60分】 1年次に学修した感染免疫学を復習しディスカッションに対応できる準備をする 【事後学修:180分】 演習内容を同じグループの学生と討論しレポートの準備をする	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師

・教科書・参考書等		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂3版	藤本秀士	南山堂	2017
参	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版	森尾友宏	メディックメディア	2018

・成績評価方法
【総括的評価】 演習内容を踏まえた課題レポート100%により評価する。
【形成的評価】 講義開講1ヶ月前よりWebClassを開講し、事前学修をレポート形式で提出して学生の習熟度について確認する。

・特記事項・その他
【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 本講義の事前・事後学修については、WebClassを活用して適宜対応する。事前学修については前述しているが、事後学修に関してもWebClassを用いてレポート形式で内容を提出して学修の成果を確認する。レポートの提出期限は講義最終日から3週間を目途にする（提出期限の決定は最終講義日に周知する）。 【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的			
使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影